

平成29年度 第4学年 授業改善プラン

教科	観 点	課 題	指導の視点	具体的な手立て・改善策
国語	国語への関心・意欲・態度	・漢字の読み、書きの定着が十分でない。	・熟語や文などのまとまりで新出漢字の指導を行い、多くの例に触れさせることで定着を図る。	・国語辞典は常に学校に置いておき、授業中に辞書を引く機会を多く設定し、語彙の拡充を図る。
	話す・聞く能力	・大事なことを押さえて話したり、聞くことが不十分である。	・「話し方」「聞き方」のポイントを意識させながら話し合い活動を多く取り入れて指導する。	・文などのまとまりで練習する習慣を身に付けさせ、新出漢字を熟語で定着できるようにする。東京ベーシックドリルを活用する。
	書く能力	・登場人物の心情をとらえながら話すことが苦手である。	・登場人物の心情を場面、会話、行動などから読み取れるようにする。	・週に一度漢字ミニテストで定着状況を把握し、補充テストを繰り返し行うことで、一人一人の習熟度を高めていく。
	読む能力	・文と文のつながりを考えて、文章にすることが苦手である。	・文章を書く能力を身に付けさせるため、構成をしっかり指導する。	・話の中心に気をつけて聞き、質問したり、感想を言ったりする機会を増やす。また、場面や行動から読み取れることを共有できるように発問を工夫する。
	言語についての知識・理解・技能			・「はじめ」「中」「おわり」に注目し、構成メモを作らせ、書き方の基本の確認をしてから作文を書かせる。
	全国学力調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて		・既習の漢字を使うように指導する。	・送り仮名なども意識して、作文や短文を書くときに既習漢字を使うように声かけをする。
		・季節を表す言葉を、その季節に指導できるようにする。	・児童が実感できるように、季節を表す言葉を適切に指導していく。	
社会	社会的事象への関心・意欲・態度	・自分の生活と関連して学習を進めてきたが、学習した後に、自分の生活と関連する児童が少ない。	・学習したことが生活の中と関連していることを意識できるようにする。	・「まとめて終わり」という意識でなく、まとめたことが使えると感じられるようにする。学習が終わった後も、様々な機会話題に取り上げるようにする。
	社会的な思考・判断・表現	・適切な資料やグラフを選んで読み取ることができない。	・資料やグラフを工夫して提示する。	・どんな資料が必要かを考えさせうえて、資料やグラフを提示する。また、複数の資料やグラフを提示することで必要な情報を選ぶ機会を確保する。
	観察・資料活用の技能・表現			
	社会的事象についての知識・理解			
		児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて		・地図を適切に活用して、区市町村の位置や都道府県の位置についての理解の定着を図る。
算数	算数への関心・意欲・態度	・3位数×2位数の乗法など、計算の技能が十分でない児童がいる。	・反復練習により、計算の技能を身に付けさせる。	・計算や、単位換算、時刻と時間などのミニプリントを用意し、朝学習や授業の初めなどに、実施する。東京ベーシックドリルも活用し、定着を図る。
	数学的な考え方	・長さや重さの単位換算や、時刻と時間の問題が苦手な傾向がある。	・長さや重さの単位や、時刻と時間についての知識・理解を深め、技能を高める。	
	数量や図形についての技能	・問題の場面を図を使って表せない児童がいる。	・問題の場面を図で表す方法を知り、図を活用して問題の場面を表せるようにする。	・問題場面を線分図を使って表すなどの活動を多く取り入れ、児童に発表させる。
	数量や図形についての知識・理解			
		全国学力調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて		・わり算の筆算について、確実な定着を図る。
理科	自然事象への関心・意欲・態度	・実験や観察は意欲的に行うが、その結果から考えることが苦手な児童が多い。	・何のために観察や実験をするのかを明確にし、観察結果や実験結果から導き出されることをまとめる。	・問題解決的な学習の流れを重視し、特に、「考察」「まとめ」の部分があることを意識させる。始めはモデルを提示し、「考察」「まとめ」の仕方を定着させる。
	科学的な思考・表現	・自然現象をいくつかの視点で観察することに慣れていない。	・相違点や共通点といった視点を明確にする。	・一つの植物や自然現象を継続して観察する際に、定点観察をして相違点・共通点に着目させて比較させる。
	観察・実験の技能・表現			
	自然事象についての知識・理解			
		児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて		・もののあたままり方の学習では、確実な定着を図る。
音楽	音楽への関心・意欲・態度	・集中力が続かない児童がいる。	・授業規律の確認や教室環境づくりを工夫する。	・音楽室のルールを確認する。授業に気持ちが向くような課題提示を工夫する。
	音楽表現の創意工夫	・楽曲に合った表現の工夫が十分でない児童がいる。	・十分に楽曲のよさやおもしろさを感じ取らせる。	・リズム打ちや階名唱をさせるなど、十分に楽曲のよさやおもしろさを体得させ、自分の思いに沿った表現を工夫させる。
	音楽表現の技能	・リコーダーの基礎的な技能の習得に課題がある。	・姿勢や構え方、タンギング、運指、奏法について確かな定着を図る。	・姿勢リコーダーを演奏する時のタンギングや息の使い方を指導していくようにする。
	鑑賞の能力			
図画工作	造形への関心・意欲・態度	・制作への集中が続かず、すぐに離席してしまう児童や、作品づくりに気持ちを向けられない児童が多い。	・制作に意識を向けて取り組めるような環境づくりをする。	・課題名やめあての言葉を大きく掲示し、意識付けをする。道具や材料については、授業に必要なものは準備室にしまうなど、児童が集中して取り組めるようにする。
	発想や構想の能力	・めあてに沿って、丁寧に取り組むことが難しい児童が多い。	・めあてが児童自身のものになるようにする。	・めあてを一方向的に提示するのではなく、児童とともに考え、作っていく。
	創造的な技能			
	鑑賞の能力			
体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度	・チームやグループで取り組むゲーム型運動では、勝敗にこだわる傾向がある。	・授業だけでなく、休み時間等も通して運動にふれる機会を増やし、基本的な運動能力を高めるとともに、楽しさを味わえるようにする。	・ワークシート等を利用しながら個人やチームのめあてをたて、達成できるような授業の展開をし、勝敗だけでなく、運動そのものの充実感を味わわせる。
	運動や健康・安全についての思考・判断	・運動に対する意欲や、技能の個人差が大きい。	・集団で行動して、動きをそろえようとする態度が身につけていない児童がいる。	・ペア活動を取り入れ、よい動きや改善すべき点を伝え合えるようにする。
	運動の技能			・動きのポイントを視覚的にとらえられる資料の提示を工夫したり、コーディネーショントレーニングを取り入れたりする。
	健康・安全についての知識・理解			・集団で活動することの重要性を理解させるとともに、ポイントを分かりやすく説明する。